

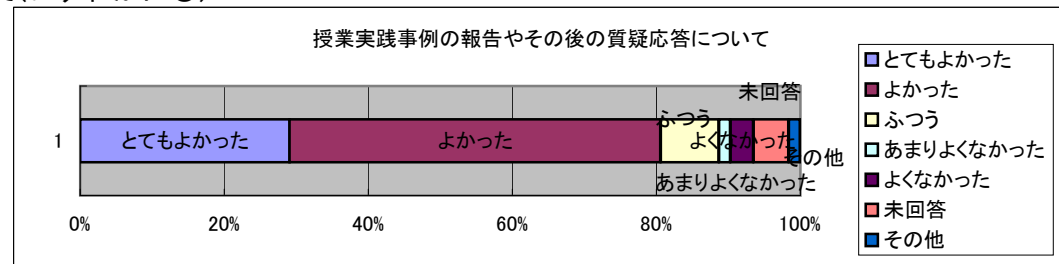
「大学授業研究会」アンケート(第1回 7月1日)

1. 環境 横川 公子先生 2. 英文 山田 慎人先生 3. 共通 濱谷 英次先生

参加人数	120
アンケート回収枚数	62
アンケート回収率	52%

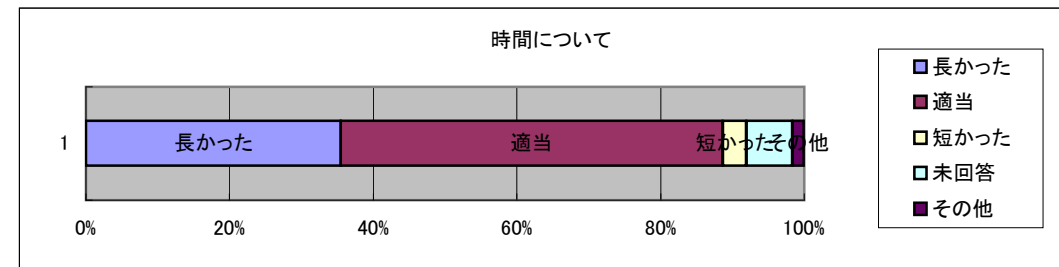
1. 授業実践事例の報告やその後の質疑応答について(いずれかに○)

とてもよかった	18
よかった	32
ふつう	5
あまりよくなかった	1
よくなかった	2
未回答	3
その他	1



2. 時間について(いずれかに○)

長かった	22
適当	33
短かった	2
未回答	4
その他	1



3. 自由記述コメント(抜粋) 47件

・時間が足りないくらいだった。
・想像していた以上に有意義な時間だった。
学生心理の理解や授業中の教師との人間関係の構築をはかることの重要性を思い知らされた。
1人1人が自分の持ち時間を守ってほしい。私語のアンケートは「教員用」を作ってほしい。その際、濱谷先生の提案の「携帯」という名の私語(指を使った私語)についても聞いてほしい。
若手からベテランまで先生方が受講する学生の態度、思考力等授業をそれぞれ工夫しているのが良くわかった。特に山田先生の取りくみ方、考え方に賛同した。難しい事をわかりやすく教える事は授業、特にレッスンで行なっている。学生をほめながらやる気を起こさせる事はエネルギーはいるが楽しい事だ。
新任なので参考にさせていただきました。特に短大の方で私語、化粧など目につきます。
それぞれの講義、演習の対象や内容でできる工夫のちがいはあると思いますが、ちがった現実を知ることができてよかったと思います。濱谷先生が発表されたことは一般的・具体的で納得できましたし、失敗したというかうまく授業を進められなかった時の原因や改善方策を考えることができました。

「私語」について授業研究(小・中学校)から感じることは、「聞くこと」が「聞く」だけに制限され、「聞きながら考えたり、わからないところや批判したいところを互いに声にする自由」が「私語」として教師によって奪われてきたことがあるのではないかと思います。教師のペースに授業が支配され「学び手」のペースがあまりに考えられてこなかったのではないかと思います。だから「いかに話をさせるか」「教師の話にストップをかけられるか」ということを教師が「学び手」に育ててあげたいと考えています。
・私語については、多分に教員の認識、取り組み、言動に課題があることを改めて感じた。 濱谷先生の説明、私語に対する考え方、非常に整理されていてわかりやすかった。良いレポートをほめても学生に戸惑いがあるというのは意外であった。検討模型で良くできたものを取り上げることは一年生の時から行うし、「皆仲良く同じ」ではなく、競争心、ライバル心も持ってもらうないと社会に出てからうまくやっていけないのではと思っている。確かに3年生くらいから突然個人をほめるのも学生が惑いがあるように思うが、1年生の早いうちから行くと、学生達は頑張っている良いものを作ればほめられて良いのだと思うことに効果的かと思う。
「成功例」を数多く報告していても、似ている内容になりがちです。難しいことかもしれませんが、教員が「比較されることへの『おそれ』」を克服し、「失敗例」を分析し、それを減らしていく必要があると思います。
○教員同士で意見やアイデアを交換できる状況を設定されてはいかがでしょう。 ○タイムキーパーが必要なようですね。 ○個別の原因論、技術論を(いずれ)体系的に集積して下さい。
現在テキストを買わない・持たない学生の私語についてこまっています。 学生が主体的に授業に参加していくさまざまな方法を紹介してもらい、大変参考になりました。また「出席をとる大学のルール」「遅刻に対するルール」など考えなければならないテーマもあり、貴重な時間を過ごすことができました。
・担当授業にかける教員の熱意が工夫につながることを感じる事ができた。 試行錯誤されながら、具体的に対策を考案されている点がとても参考になりました。
各教師の授業体験に基づいているだけに、内容があって参考になった。私語の問題も、授業内容、学生との人間関係、細かな指導技術の問題につきると思います。
今年度はこれまでになく私語に悩まされる日々が続いています。自信を失いつつありましたが、濱谷先生のお話の中に、私が必ず実践していることと驚くほど共通した部分が多々ありました。要は自信を持ってやり続けていくことと感じました。
入学試験である程度以上の学力レベルを持っている者を選抜したはずであるが、学ぶことの意義が分かっていない学生が増えている。必ず教えるべき項目が設定されている科目では自由度なし。

4. 今後の希望(抜粋) 20件

山田先生がご指摘されているように、個人の工夫を越えて、全体のシステムに関する議論が必要かと思います。「FD」の趣旨からは外れるかもしれませんが・・・。
定期的開催を望みます。
学ぶことに全く関心を示さない学生への対応策についての例を期待します。
演習科目等の授業についてもお聞きしたいです。
私語の定義＝授業に関係のない、他者に妨げになる対話であること。Finger Talkも含まれるなど再定義が必要ではないか？
専門性との関係をふまえた授業の方法の違いについて、など焦点を絞ったテーマを設定して欲しい。
今回の(私語をとりあげた)意図はよくわかったが、実際にもっと意識の高い学生をどう指導するかという企画もほしい。(個人的には私語については困っていないので)
学生の意欲向上への工夫について実践されている先生方のアイデアを伺いたいです。

5. 所属

日文
英文
教育
健スポ
心福
環境
食物
情報
建築
音楽
薬学
共通
教研
事務
未回答
計

3
5
2
7
6
5
4
6
1
4
6
2
1
2
8
62

